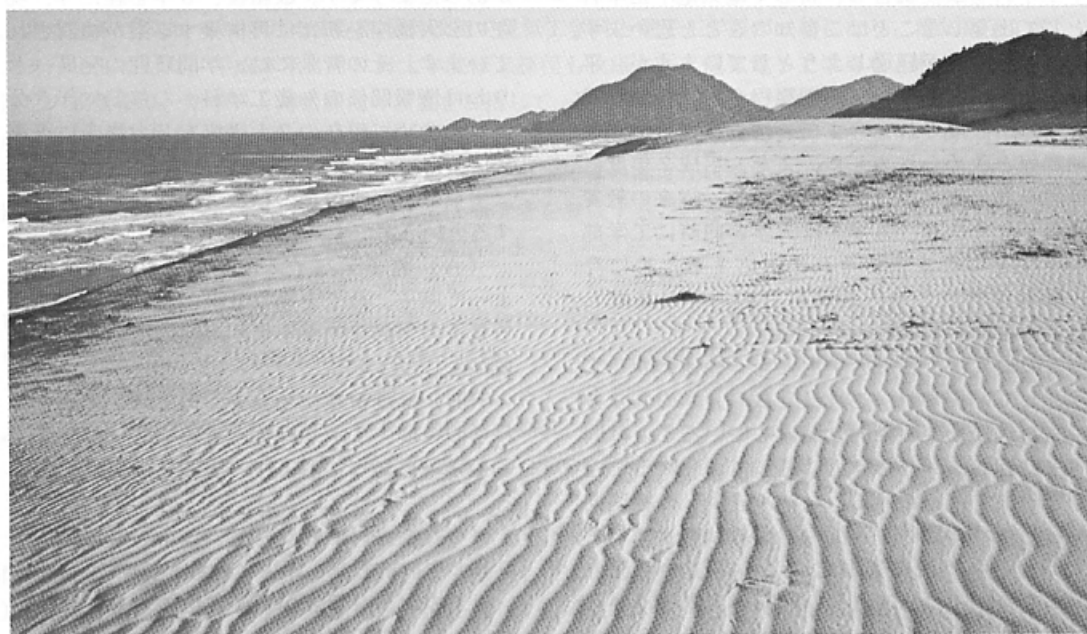


鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

湖鳥会会報

第3号 1994年12月 鳥取市湖山町南4丁目101番地
鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会 湖鳥会



<目次>

- 「キャンパス状況、今」
 - 大学院工学研究科 博士後期課程の設置について
 - 新設講座紹介—光エレクトロニクス講座—
 - 新任・昇任・退官教官の一言
 - 同窓生の近況
 - 電気主任技術者学校認定制度及び試験制度の変更について
 - 電気電子工学科組織一覧
 - 1993年度事業報告/1994年度事業計画
 - 1993年度決算報告/1994年度予算案
 - 湖鳥会事務局からの連絡
- | | |
|------|---------------|
| 学科長 | 小西 亮介 |
| 講座主任 | 副井 裕
安東 孝止 |
| | 松岡 節 |

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

湖 鳥 会 会 報

1994年12月現在

同窓会会員数	1,952名
電気電子工学科在学生数	384名
特別会員数	17名
賛助会員数	39名

昭和40年の電気工学科、昭和43年の電子工学科の創設以来、両学科は相互に密接な関係をもって発展してきましたが、近年の学問、技術の進展に伴って、両学科でカバーする分野は益々密接に関係するようになり、新たな学問領域も生まれました。このような科学技術の動向に対応するために、平成元年に電気工学科と電子工学科を改変統合し、新しく電気電子工学科として出発したことはご存知のことと思います。それから6年が経過しようとしています。平成6年度に博士課程（前期課程2年、後期課程3年）が設置され、今までの修士課程は博士前期課程と改められました。また、平成7年度には教養部の廃止が予定されており、従来の教養課程がなくなり、入学生は入学と同時に工学部の学生となります。それに対応するために今、一般教育科目と専門教育科目の内容の見直し、および履修方法の検討がなされています。

このように、鳥取大学も大きく様変わりしようとしています。これは今日の大学のあり方が問われ、社会の動向と関連していることは同窓生の皆さんが一番身近に感じておられることと思います。いわゆる“バブル経済”の絶頂期からそれがはじけて不況の波が押し寄せていますが、これは産業空洞化による構造的な不況となつて会社ではリストラ、配転等日常そういう言葉が違和感なく入ってきます。勿論、企業の第一線で活躍されている皆さんには身近かに体験されておられることと思います。このような世の中の情勢を受けて、我が鳥取大学電気電子工学科でも昨年あたりから、就職状況が以前に比べて様変わりしました。昨年、今年と少なからぬ学生が夏休みあるいはそれ以後に就職内定を持ち越されるという事態はこれまで（最近10年ぐらい）考えられないことでした。一部“レジャーランド化”していた（反論があるかもしれませんが？）キャンパスに少なからずショックが走ったことも確かです。すなわち、学生一人一人の資質が問われる様になり、いまさらながら、“大学でなにをどう学ぶか？”ということを問直すいい機会となつたことも事実です。このような折り、電気電子工学科でも第2の改革を検討しています。それは講座についてです。皆さんが従来からもっている講座とい

う概念は平成元年改組後、大講座という形で「電気回路システム」と「電子回路デバイス」という2大講座に分けられました。従来の講座は教育研究分野という形で学科運営してきましたが、どうしても「電気回路システム」は旧電気工学科、「電子回路システム」は旧電子工学科というふうにみられるので学科運営にも苦労があったようです。改組後、6年を経た今、現在の2大講座を新たに再構築する案が検討されています。その背景には、学問研究の発展、とりわけ情報関係の知能工学科への移転に伴う分野等を含めて現在の2大講座を3大講座に再編成する案です。

すなわち、次の3つの教育研究分野に再構築するという案です。

(A) 電子デバイスは集積回路の微細化によって原子、分子を扱う分野の基本的原理である量子力学的な効果をより直接的に取り扱う必要が生じつつある。

(B) 高度情報化社会を支えるコンピュータ科学の発展、広がり益々急速であり、電気電子工学科にあつてもより一層の充実が求められる。

(C) 従来の回路システム技術も電気電子工学科の中核技術として益々重要になっている。

以上のような認識から、現状の「電気回路システム」「電子回路システム」の2大講座を新たに再構築し、「電子情報制御」「電気電子システム」「電子物性デバイス」の3大講座に改組することを検討しています。このような改革案が認められれば平成7年度から新たな体制で電気電子工学科として再出発することになります。

山紫水明の地、研究教育条件はバツグンです。他大学に負けじ劣らず施設もスタッフも充実しつつあります。器は整いつつあります。今後は中身が問われます。今後とも、鳥取大学工学部電気電子工学科が発展するよう、教職員、院生、学生ともガンバルつもりです。卒業生の皆さんもきびしい状況とは思いますが、益々の活躍を期待しております。時にはブラリとキャンパスを訪れて下さい。

（電気電子工学科 教授）

大学院工学研究科 博士後期課程の設置について

電子情報システム工学講座
講座主任 副井 裕

卒業生のみなさん、お元気ですか。各職場でご活躍のことと思います。皆さんが卒業されてから、鳥取大学工学部も大幅に変わりつつあります。今回は、大学院工学研究科博士後期課程（いわゆる博士課程）の設置を中心に、電気系学科の変貌をお伝えしたいと思います。

昭和49年（1974年）4月に大学院工学研究科修士課程電気工学専攻および電子工学専攻が設置されました。平成元年（1989年）4月の工学部学科改組で電気工学科と電子工学科が一緒になり、電気電子工学科がスタートしました。平成5年4月には大学院修士課程も改組され、電気電子工学専攻となりました。修士課程の設置後は、新学科と博士課程の設置を目指して、関係者の地道な努力が続けられてきました。

平成6年（1994年）4月にそれらの成果が実り、大学院工学研究科博士後期課程の設置が認められました。この博士課程では、独創的かつ先駆的な研究を推進できる高度な研究者および社会の多方面の分野で活躍できる広い知識と応用力を有する技術者・研究者を養成することを目的としています。この目的を達成するために、講義・特別実験・特別研究を実施します。

博士後期課程は、情報生産工学専攻、物質生産工学専攻、社会開発工学専攻の3専攻で構成されています。電気電子工学科に最も縁の深い情報生産工学専攻は、生産システム工学講座（主として機械系）、知能情報工学講座（主として知能情報系）と電子情報システム工学講座（主として電気電子系）から成り立っています。電子情報システム工学講座は『回路システム工学』、『情報電子工学』、『電子デバイス工学』、『電子物性工学』の4つの研究分野で回路、制御、情報、コンピュータから超電導、半導体デバイス、電子物性、光エレクトロニクス等に至るまで、現在の高度情報化社会を支える最先端の分野をカバーしています。

博士後期課程では、博士前期（修士）課程修了者、社会人、外国人留学生などを受け入れています。当講座関係では、平成6年4月に博士前期課程修了者1名（本学卒業生）、社会人5名（うち4名は本学卒業生）、留学生1名（本学修士修了生）が入学しました。平成7年4月には社会人4名（うち2名は本学卒業生）、留学生1名（本学卒業生）の計5名が入学することになっています。特に社会人入学は、職場で働きながら（上司の許可を得て）博士後期課程の学生となる制度で、研究の進め方や授業形態の弾力化を図っています。遠くは関東地方や九州の会社に勤務しながら入学している卒業生もいます。また、学部卒の方でも博士後期課程に直接入学できる制度もあります。入学試験は8月、翌年2月の年2回が予定されていますが、社会人特別選抜に関しては『これまでの研究内容』と『今後の研究計画』について口述試験が行われます。筆記試験はありません。いずれにしても、博士号取得をお考えの卒業生は、一度関係教官にご相談下さい。また、募集要項を入手ご希望の方は電気電子工学科教官または工学部学生係（TEL.0857-31-5186）へお問い合わせ下さい。

電気電子工学科では平成6年3月と4月に5名の新任教官（うち2名は卒業生）が着任され、新設の光エレクトロニクスを含め、9つの教育研究分野（研究グループ）体制となりました。また、研究室、実験室、学科事務室、図書室等の大幅な配置替えも実施されました。工学部の入学定員は510名と学内では一番大きな学部で成長し、平成7年4月には応用数理工学科（定員40名）の新設も予定されています。卒業生の訪問は大歓迎ですので、母校の変貌を見にでも、博士課程入学の相談にでもお気軽にお立ち寄り下さい。

卒業生諸氏のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

（電気電子工学科 教授）

新設教育研究分野紹介

——光エレクトロニクス工学——

電気電子工学科 安東孝止

電気電子系の卒業生の皆様、各方面でお元気で御活躍のことと思います。

私は、昭和52年の電気工学科の卒業で、たしか電気系の3回生であります。23年ぶりに大学の研究室に復帰させて頂き、現在「光エレクトロニクス」という新設の教育研究分野で、卒研究生と一緒に毎日研究設備の立ち上げに奮闘しているところです。工学部（特に電気電子系）も20年以上経過すると、昔に在学していたころのイメージとは大きく変貌し、大学院（修士及び博士課程）を始め、各種の研究センター群、学科増設等で諸先生方も忙しく、大変活気があるように感じています。

さて、この4月より、私自身が担当することになりました「光エレクトロニクス」研究分野について、この欄をお借りして少し紹介させて頂きます。よくご存じのように、従来の半導体産業は、Siを中心にした（というよりはSiの独壇場であったかも知れませんが？）LSI-電子デバイスにより、進んで来ていましたが、近年のファイバーによる光通信の実用化に伴い、様々な種類の信号の伝送、受信及び信号処理を”電子から光”へ置き換える必要が生じて来ています。これは、近い将来のマルチメディア時代へのハードウェアの準備と考えることもできますが、もっと単純には、より早く、より安価な情報の伝送/受信システム、記憶媒体の超大容量化という、技術上の自然の要請とも考えることが出来ます。光エレクトロニクスは、読んだ字のごとく、電子デバイスと各種光デバイスが融合した新しい部品材料の分野で、ファイバー等の光導波材料、光変調器、アイソレータ等の誘電及び磁性材料、半導体レーザーや受光器を構成する半導体（特に化合物半導体）材料等、多くの材料技術の開発が必要になってきています。

光エレクトロニクス工学では、上記の多くの材料の中で、光システムの中心的な役割を担う半導体レーザー（LD）と受光器の開発に焦点を絞り研究を進めていきたいと思っています。半導体LDや受光器は近赤外領域の波長では既に高精度の素子が実用化されていますが、短波長可視域、特に青色や紫外域では実用的な光素子は開発されていない状況です。これらの素子の開発とその実用化を目指して、半導体結晶材料の研究（原子層エピタキシー技術）と光素子の構造設計、作製技術の研究に先ず着手する計画です。

半導体結晶材料の研究は近年目覚ましく進展し、従来のSiにおけるバルク結晶の作製とは大きく異なり、超薄膜作製の時代に突入しています。本研究分野では、半導体の薄膜形成技術を更に進めた、超格子薄膜とそれを可能にする”原子層エピタキシー”の研究に重点をおいて、世の中に遅れを取らないように（できれば大先導する研究を）進めて行きたいものです。また素子等の部品化の研究では、素子特性だけでなく、材料の電子、光物性と特性の因果関係に重点をおいて、大学でなくては出来ない様な基礎的な研究をベースにしたいと考えています。

以上抱負だけは一人前に述べましたが、着任して早、半年が経過したにもかかわらず、装置の半分も立ち上がっていない状態です。また大学には、研究以外に学生の教育指導という大きな責務があり、これらを両立させることの困難さも現在痛感しています。学内外での各種会議への出席等も私にとってすべて新しい経験で、この年令になって自分がいかに未成熟な（つまり常識を知らないというか？）人間であることも自覚できるようになってきました。しかし、私自身まだまだ、発展途上の人間であると居直って、”不真面目なようで大変真面目”な現代の学生を相手に楽しい教育、研究生活を送っていきたくと思っています。

今後もし大学へ来られる機会がありましたら、是非立ち寄って頂き、私や学生へのアドバイスを兼ねて、世の中の実際の進行状態を教えてくださいたいと思います。日本海のおいしい魚と安い酒を準備してお待ちしています。

（電気電子工学科 教授）

新任・昇任・退官教官の一言

時期	氏名	新所属	旧所属
新任(平成6年 3月 1日)	大木 誠	電気回路システム講座・助手	沖電気工業(株) 研究開発本部 電子システム研究所
新任(平成6年 4月 1日)	伊藤 良生	電気回路システム講座・助教授	職業能力開発大学校情報工学科
新任(平成6年 4月 1日)	菅原 一孔	電子回路デバイス講座・助教授	神戸市立工業高等専門学校電子工 学科 助教授
新任(平成6年 4月 1日)	市野 邦男	電子回路デバイス講座・助手	京都大・工・電気 博士後期課程
退官(平成6年10月31日)	宮崎 和彦	広島電機大学工学部・教授	電気回路システム・教授

電気回路システム講座・助教授 伊藤 良生

平成6年4月1日付けで電気回路システム講座の助教授に着任いたしました。それまでは、労働省管轄下の職業能力開発大学校情報工学科に勤務しておりました。現在、世の中では新しい秩序を構築すべく改革の真っ最中であり、大学もその例外ではありません。このような中であって、本学の発展のために少しでもお役に立てればと思っております。また、湖鳥会の皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

電子回路デバイス講座・助教授 菅原 一孔

今年4月1日付で電気電子工学科に赴任してまいりました。それまでは神戸の工業高等専門学校の電子工学科に勤務していました。電気・電子回路工学およびデジタル信号処理システムの構成法とその応用を研究テーマとしております。特に最近は新しい画像処理手法の提案と回路網解析への数式処理言語の応用に関するテーマに興味をもっています。新しく大学院の後期課程が新設された本学で、微力ながら少しでも教育研究活動上でお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

電子回路デバイス講座・助手 市野 邦男

平成6年4月より助手として着任致しました。鳥取に住むのは初めてで、最初は学内外とも文字通り右も左もわからない状態でしたが、公私ともようやく少しずつ慣れてきました。これまでは、可視短波長発光デバイス材料としてのII-VI族半導体の分子線エピタキシャル成長と評価に関する研究に携わってきました。こちらでも、小林洋志教授、北川雅彦助教授のもとで関連する研究を始めています。これまでの鳥取大学についてはよくは存じませんが、大きな変革期を迎えているように感じられます。まだまだ若輩ではありますが、若いなりの視点で研究・教育に取り組みたいと思っております。同窓生の皆様方にも今後よろしくお願ひ申し上げます。

電気回路システム講座・助手 大木 誠

この度、平成6年3月1日付けで助手として着任いたしました。現在、演算制御工学研究室(大北教授)において超音波ホログラフィに関する研究を行っております。私は本学修士課程を終了後、約6年間でありましたが企業に勤めておりました。そこでも鳥大OBの諸先輩方にささえられ、多方面にわたりご指導いただきました。そこで得た経験を生かし、少しでも教育研究に、そして地域に貢献できればと思います。今後も、湖鳥会の皆様とともに母校の発展に頑張りたいと思います。



湖鳥会

同窓生の近況

第2回電子工学科卒業 楠 敬一

卒業後、三菱電機に17年間勤務し、本社の海外プラントを手掛けておりましたが、3年前に変身して、今は鳥取市の中電ふれあいホール前にて、オリーブはり灸院を開業しております。よろしく！！

(自営業)

オリーブはり灸院



TEL 21-3811
にりさんのほりはい

第6回電気工学科卒業 深田 哲司

電気電子工学科同窓会が発足して2年、理事として名前を入れていただいておりますが、まだ同窓会への活動をしておりませんでした。今回、近況報告を書く機会が得られましたので投稿させていただきます。

卒業して20年、会社でも勤続表彰された1994年でした。現在は、松下電器産業(株)技術・品質本部技術総務センタ情報システム部に所属しています。松下では96年度利益率5%を目指した再生計画を実施中で、

2月に大きな組織変更が行われ、私も上記部署となりました。当部は、本社研究開発部門に対して情報技術基盤の構築とシステム支援を行っています。私はアプリケーション開発を担当し、4GL/クライアント・サーバのオープンシステム開発(研究管理、特許出願管理等)を主に行ってきました。PCがDOS/V、Windowsへ一本化されようとしている中で移行への対策に苦慮しているこの頃です。

コンピュータとの出会いは、大学時代、小林先生の電力研究室で音声合成を卒論としたときからです。当時は、HITAC10でアクティブフィルタの周波数特性を計算し、東芝の大型計算機を使ってフーリエ解析の計算をしていたことを今でもよく覚えています。卒業後、研究所に配属され圧電材料の応用開発を15年間やり、その間に研究所内のLANをHPのコンピュータを使って構築してきました。その経験から、今の仕事に結びついていったのです。

当時の研究所時代に、S61年電子工学科を卒業した大塩君が配属されてきました。鳥大からは珍しかったこともあり、当時の大学の様子をよく聞いたものです。現在は彼とは別な職場となりましたが、山仲間であり遊びでは一緒になる機会がよくあります。

とりとめもない話になりましたが、皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

(松下電器産業(株) 勤務)

第8回電子工学科卒業 河原 宏之

現在、愛知県にあります日本電装に勤めておりますが、この度先のニューヨーク駐在に続き、デトロイトに駐在することになりました。11月16日に出発し、約5年間の予定で、アメリカ北東部のニューヨークより更に寒い所にて生活することになります。今回の業務はアメリカBIG3相手の直納営業技術サポートですので、気を使う必要が増しました！

アメリカご旅行の際には、是非ご連絡下さい。

HIROYUKI KAWAHARA

C/O Nippondenso America, Inc.

24777 Denso Drive, P.O. Box 5133

Southfield, Michigan 48086 U. S. A.

TEL. 1-801-350-7500

(日本電装 勤務)

きるのですが、それだけでは不十分であり、磁気回路としての理解が必要になってきます。

斉藤先生との共同研究は、従来の設計では不十分であった磁気回路としての理解を深めるものであり、基礎研究部門を持たない当社としては非常に有意義なものであります。初年度である今年は、実用意義と学術意義の両方を満足する研究課題の模索に終始しそうですが、当面の目標であった学会発表は無事終えることができました。

学会発表といっても電気学会の中国支部大会なのですが、学会に参加したこともなかった私には非常に良い経験になりました。この機会に電気学会会員にもなりましたし、また先生のご配慮で工学部研究報告の論文をまとめることもできました。在学当時より academic な1年間だったように思います。おかしなもので、在学中は全く勉強嫌いだった私ですが、卒業してから学ぶことの面白さがわかった気がします。

末筆になりましたが、この1年間大変お世話になった斉藤先生をはじめ学生の皆様、そして同窓会の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたします。

(ダイヤモンド電機(株)勤務)

第19回電子工学科卒業 長岡 明宏

同窓会の皆様、如何お過ごしでしょうか。

私は、1990年3月に卒業後ダイヤモンド電機(株)に入社し、点火コイルの設計業務に従事しております。今年は、電気電子工学科の斉藤助教授との産学共同研究を行っており、古巣の鳥取大学に通う日々を重ねております。

点火コイルというのは、自動車用エンジンの点火のために、バッテリー電圧(12V)を20kVに昇圧して点火プラグに供給するトランスのことです。点火コイルの特性は、基本的には電気回路として扱うことで理解で

お知らせ

湖鳥会では、皆さんのお便りをお待ちしております。皆様の学生時代の思い出話、苦勞話、また最近のご近況など、多数お待ちしております。よろしく願いいたします。

電気主任技術者学校認定制度及び試験制度の変更について

電気電子工学科教員 松岡 節

Email : mat.@cle.tottori-u.ac.jp

卒業生の皆さんは、産業界や学会で大なる活躍をされていることとお察しします。さて最近、電気主任技術者制度が変更されてきましたので、お知らせします。

これは、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第1条第1項の規定による電気主任技術者免状に係る学校等の認定基準 制定(平成6年3月23日 6資公部第108号)により大幅な変更に伴うものです。またこれに先立ち、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令の改正(平成5年10月6日付け通商産業省令第60号)があり、平成7年度から試験制度が大幅に変わります。鳥取大学工学部電気工学科及び電気電子工学科は電気主任技術者学校認定校となっていますので、認定科目の単位を取得して卒業し、卒業後の実務経験により電気主任技術者の免状を受けることができます。大学側では、工学部学生係に申し出があれば、単位修得証明書を交付することになっています。実務経験の証明は、勤務している会社等から付与して貰うことになります。

卒業の際に、認定科目の単位不足があっても、今回の改訂により二科目を限度に、一次筆記試験の当該科目の合格をもって、修めたものとみなされます。電子工学科の卒業生の場合は、国家試験で電気主任技術者の免状交付をうける以外に道はありませんが、国家試験は口述試験が廃止され、7月の一次筆記試験4科目と、10月の二次筆記試験2科目(第3種は実施しない)となり、科目合格の制度や簡易方式(第1種、第2種の一次試験)が取り入れられるなど、受験しやすくなっています。職場の都合で、電気主任技術者の資格が必要な場合は、第3種(工業高校卒業程度)から資格取得し、あとは実務経験により上位資格(第2種、第1種)取得につとめて下さい。電気主任技術者の業務範囲の見直しに付いては、平成7年度になります。

本学では、平成6年度中に省令の定めによる変更の手続きをとる準備をしています。新制度による単位修得証明書の書式などについても、通産側と折衝することになっています。なお、電気電子工学科では、本件についての問い合わせは、電気電子工学科教室事務宛連絡下さい。(FAX 0857(31)0880)

卒業生諸氏のご健勝とご活躍を期待して、筆をおきます。

(問い合わせ先)

第1種及び第2種電気主任技術者国家試験関係及び第1種-第3種電気主任技術者免状に関する問い合わせの場合

〒100 東京都千代田区霞が関 1-3-1 資源エネルギー庁公益事業部技術課検定係

電話 03(3501)1511 内線 3841-5 FAX 03(3580)8486

(又は所轄の通商産業局公益事業部施設課技術係まで)

第3種電気主任技術者国家試験関係の場合

〒100 東京都千代田区有楽町 1-7-1 有楽町電気ビルディング(財)電気技術者試験センター

電話 03(3213)5991 FAX 03(3456)3281

電気電子工学科組織一覧

講座	研究グループ	教官・職員氏名	内線番号	直通電話番号	電子メール・アドレス
電気回路システム	電磁	斎藤 皓彦 助教授	4 2 0 1	3 1 - 5 2 7 3	saito@ele.tottori-u.ac.jp
		笠田 洋文 技官	4 1 7 2	3 1 - 5 2 3 3	kasada@ele.tottori-u.ac.jp
	情報	副井 裕 教授	4 1 8 0	3 1 - 5 2 3 4	fukui@ele.tottori-u.ac.jp
		石田 雅 助教授	4 1 8 1	3 1 - 5 2 3 5	m_ishida@ele.tottori-u.ac.jp
		伊藤 良生 助教授	4 1 8 5	3 1 - 5 6 9 8	itoh@ele.tottori-u.ac.jp
		立木 純夫 技官	4 1 8 2	3 1 - 5 6 9 0	tsuiki@ele.tottori-u.ac.jp
演算	大北 正昭 教授	4 1 9 0	3 1 - 5 6 9 9	mohkita@ele.tottori-u.ac.jp	
	松岡 節 講師	4 1 9 1	3 1 - 5 2 3 1	mat@ele.tottori-u.ac.jp	
	大木 誠 助手	4 1 9 2	3 1 - 6 7 0 1	mohki@ele.tottori-u.ac.jp	
機器	西守 克己 教授	4 2 0 0	3 1 - 5 6 8 8	mis@ele.tottori-u.ac.jp	
	加藤 義人 助手	4 2 0 2	3 1 - 5 2 3 6	kat@ele.tottori-u.ac.jp	
	石原 永伯 技官	4 1 9 8	3 1 - 5 6 8 9	ishi@ele.tottori-u.ac.jp	
光エレクトロニクス	安東 孝止 教授	4 3 1 0	3 1 - 5 6 9 7	ando@ele.tottori-u.ac.jp	
電子回路デバイス	個体	小林 洋志 教授	4 3 4 0	3 1 - 5 2 3 8	kobayasi@ele.tottori-u.ac.jp
		北川 雅彦 助教授	4 3 4 1	3 1 - 5 2 3 9	kitagawa@ele.tottori-u.ac.jp
		市野 邦男 助手	4 3 4 2	3 1 - 5 2 4 0	ichino@ele.tottori-u.ac.jp
	物理	田中 省作 教授	4 3 3 0	3 1 - 5 3 3 0	tanaka@ele.tottori-u.ac.jp
松浦 興一 助教授		4 3 3 1	3 1 - 5 2 4 1	matsuura@ele.tottori-u.ac.jp	
大観 光徳 助手		4 3 3 2	3 1 - 6 7 0 0	ohmi@ele.tottori-u.ac.jp	
デバイス	徳高 平蔵 教授	4 3 5 0	3 1 - 5 2 4 2	tokutaka@ele.tottori-u.ac.jp	
	岸田 悟 助教授	4 3 5 1	3 1 - 5 2 4 4	kishida@ele.tottori-u.ac.jp	
	藤村喜久郎 助手	4 3 5 2	3 1 - 5 2 4 3	fujimura@ele.tottori-u.ac.jp	
回路	小西 亮介 教授	4 3 2 0	3 1 - 6 7 0 3	konishi@ele.tottori-u.ac.jp	
	菅原 一孔 助教授	4 3 2 1	3 1 - 5 2 4 5	sugawara@ele.tottori-u.ac.jp	
	尾崎 知幸 技官	4 3 2 2	3 1 - 5 2 4 6	osaki@ele.tottori-u.ac.jp	
電気電子工学科事務	奥山 陽子	4 3 5 5	3 1 - 5 2 4 7		
電気電子工学科へのファックス番号			----	3 1 - 0 8 8 0	-----
その他	システム解析室		4 1 9 9	3 1 - 5 2 3 1	-----
	学科応接室		4 2 0 5	-----	-----
	超高压実験室		4 1 9 6	-----	-----

1. 会員名簿の管理

●住所不明者の調査

データベース登録者合計:	1,903名
電気工学科, 電気工学専攻卒業生:	960名
電子工学科, 電子工学専攻卒業生:	943名
データベース未登録者合計:	163名
平成4年度 卒業生:	85名
平成5年度 卒業生:	78名

●会員名簿(1995年12月発行予定)の作成

2. 同窓会設立基金の徴収

3. 会報「湖鳥会会報 No.2」の発行(H5年12月)及び配布

4. 入会金の徴収

●1994年3月25日に電気電子工学科卒業生から5,000円/人を徴収した。
63名分

●名簿, 湖鳥会会報 No.1, No.2, 記念品を配布した。

●卒業後の住所調査を行った。

●会費未納者の調査を行った。

5. 記念品(同窓会オリジナル・テレホンカード)の作成

6. 理事会準備

7. 同窓会支部結成の準備

●関東, 中部, 関西に同窓会支部を設置する準備作業を行った。

8. 工学部同窓会との連携

●工学部30周年記念事業の準備などを主に行った。

9. その他

●広く会員からの意見などを受け入れ, 会員相互の親睦のための活動を行った。

1. 会員名簿の作成および管理

●住所不明者などの調査および管理を行う。

2. 入会金の徴収および記念品の配布

●1995年3月に電気電子工学科(第3回)卒業生から入会金を徴収する。

●同時に, 名簿, 湖鳥会会報 No.1, No.2, No.3 記念品の配布を行う。

3. 会報「湖鳥会会報 No.3」の発行(12月)

●今年度スケジュール

7月 基本方針検討

8月 基本方針決定

9月 原稿締切

11月 印刷

12月 発行

4. 関東, 中部, 関西に同窓会支部設置の呼びかけ

5. 工学部同窓会との連携

●工学部30周年記念事業など

6. 役員の変更

●新幹事

安東 孝止

(1971年度電気工学科卒業, 現電気電子工学科 教授)

大木 誠

(1988年度電気工学専攻修了, 現電気電子工学科 助手)

7. その他

●1995年に同窓会名簿の改訂・発行の予定である。

1993年度・会計報告

(収入の部) 1993.4.1 -> 1994.3.31

項目	予算	実績	損益	備考
同窓会・設立基金	¥0	¥1,020,000	¥1,020,000	郵便振替 100件 銀行振込 2件
入会金 電気電子工学科第2回卒業生	¥400,000	¥315,000	△¥85,000	工学部卒業 44名 修士修了 19名
会費	¥0	¥0	¥0	平成7年度に徴収
その他	¥0	¥21,908	¥0	貯金利息
(1)小計	¥400,000	¥1,356,908	¥935,000	

(支出の部)

項目	予算	実績	損益	備考
同窓会・会報発行	¥400,000	¥380,304	¥19,696	会報印刷・送料
アルバイト代	¥0	¥54,000	△¥54,000	名簿管理 ¥50,000 会費徴収 ¥4,000
事務費	¥10,000	¥2,410	¥7,590	カードファイルなど
会議費	¥50,000	¥0	¥50,000	懇親会費で会議費捻出
通信費	¥100,000	¥412	¥99,588	会報費用に送料含む
その他	¥0	¥6,000	△¥6,000	振替手数料100件分
(2)小計	¥560,000	¥443,126	¥116,874	

(3) 1993年度収支 (1)-(2)	¥913,782
(4) 1992年度繰越金	¥2,602,319
(5) 1994年度繰越金へ (3)+(4)	¥3,516,101

1994年度・予算案

(収入の部) 1994.4.1 -> 1995.3.31

項目	予算
同窓会・設立基金	¥0
入会金 電気電子工学科第3回卒業生	¥400,000
会費	¥0
その他	¥0
(6)小計	¥400,000

(支出の部)

項目	予算
同窓会・会報発行	¥400,000
名簿管理・アルバイト	¥60,000
事務費	¥10,000
会議費	¥50,000
通信費	¥20,000
その他	¥10,000
(7)小計	¥560,000

(8) 1994年度収支見込 (6)-(7)	△¥160,000
(9) 1993年度繰越金	¥3,516,101
(10) 1995年度繰越金見込 (8)+(9)	¥3,356,101

1994/03/31 現在

郵便振込口座	¥0
郵便・定額貯金	¥2,000,000
郵便・普通貯金	¥1,387,783
銀行・普通預金	¥128,184
現金	¥134
合計	¥3,516,101

湖鳥会事務局からの連絡

1. 会費について

今回で湖鳥会会報の第3号を皆様に無事に届けることができ、関係者一同がんばった甲斐があったと自負しています。

ところで会報や名簿発行などの作業は実際には決算報告で分かるようにお金のかかるものです。同窓会名簿を受け取られた方で、設立基金未納の方はこのような状況ですので、事務局までなにとぞ納入頂きますようお願いいたします。

・未納かどうかの確認方法

封筒に記載された住所下のコードNo.を確認して下さい。

(例) EC 65 001-001-10

未納の場合は00
となっています。

・振込口座番号

山陰合同銀行 湖山支店

普通 108-2351726

あるいは同封の郵便振り込みをご利用下さい。

また住所不明者は、

約600人/1800人中

となっております。名簿で気付かれた方は事務局までご一報下さいますようお願いいたします。

2. 会長より一言

湖鳥会会報第3号発行おめでとうございます。今回の会報は設立基金未納の方であっても住所の確認ができています方すべてに届いていることと思います。本会報はそういった意味で、設立基金未納の方にも無償でお届けしています。湖鳥会会報第3号を皆様にお届けできたということで、今後も継続的に会報を発行し、益々充実した同窓会活動を行っていくと考えています。このためにも事務局の気迫を感じていただき、今後とも皆様の暖かいご支援（設立基金の納入、年会費の納入、会報への原稿など・・・）をお願いいたします。

湖鳥会会長 鷺見 育亮

3. 会報原稿について

湖鳥会事務局では、会報に載せる皆様の意見、近況報告等を募集しております。紙面の関係で、すぐには載せられないかもしれませんが、少なくとも1年後には載せられると思います。原稿はどのようなものでも結構です。（例えば結婚の話とか弔問関係など）皆様のお便り・ご意見をお待ちしておりますのでよろしく願いたします。

— 編集後記 —

一昨年12月に同窓会名簿と会報の創刊号を発行してから、早くも2年が過ぎようとしています。昨年春の理事会にて、会報を毎年発行することが決まり、早速編集作業に入りました。しかしながら、掲載内容の決定と原稿の収集に手間取り、年末の発行となりましたことをお詫びいたします。会報が会員の皆様の情報交換の場としてお役にたてれば幸いです。つきましては会報についてのご要望、ご意見がございましたら事務局までお送り下さい。また、会員の方々の近況など記事を募集していますので、こちらもよろしく願いたします。

最後になりましたが、編集にご協力いただきました学内の教職員、同窓生ならびに編集委員に感謝いたします。

湖鳥会 幹事 大木誠、藤村喜久郎

<事務局連絡先>

〒680

鳥取市湖山町南4丁目101

鳥取大学工学部

電気電子工学科事務室気付

電気電子工学科同窓会

湖 鳥 会

TEL 0857-28-0321 (代)

FAX 0857-31-0880